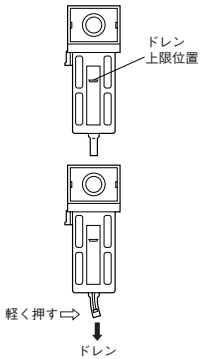
エアフィルタ

⚠ 注 意

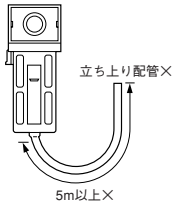
- 有機溶剤（シンナー・トリクレン等）・アルカリ溶液・酸性の溶液が付着する危険性のあるところでは使用しないでください。ケース材質は、ポリカーボネートですので、有機溶剤・アルカリ溶液・酸性の溶液が付着するとケースが破裂することがあり大変危険です。
- 落下したり強い衝撃が加わった機器は使用しないでください。部品が損傷しているとエアが漏れたり、ケースが破裂することがあり大変危険です。
- ケースを取外す場合は、必ずケース内の圧力を0にしてから行ってください。残圧がある時ケースを取外すと、ケースが吹き飛び大変危険です。

ドレンの排出

- ドレンは上限表示位置より上になる前に排出してください。上限表示位置以上になるとドレンが配管内に流れ込みます。ドレン量が多い場合は自動排水弁を使用してください。
- 手動式の排出方法
  - ○ドレンチューブを横から軽く押しドレンレバーを傾けると行えます。



- 自動排水弁使用上の注意事項
  - ○自動排水弁は、振動のある場所で使用しないでください。作動不良の原因となります。
  - ○自動排水弁のドレン排出口を配管する場合は、5m以内とし立ち上がり配管は避けてください。ドレンが排出されない場合があります。

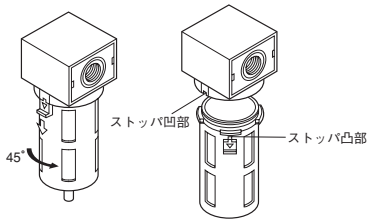


○差圧式自動排出弁の使用圧力は0.1MPa以上とし、配管は空気が流れた瞬間のIN側とOUT側における差圧が0.05MPa以上となるようにしてください。圧力や差圧が低いと作動しない場合があります。
（SAFシリーズ）

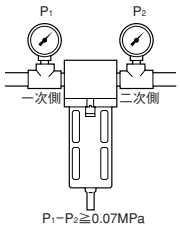
○フロート式自動排出弁の使用圧力は0.15MPa以上とし、配管は空気が150ℓ/min以上の流れるようにしてください。ドレン排出口からの漏れが止まらない場合があります。
（EAF・MAF・HAFシリーズ）
オートドレンはゴミなどの汚物により作動不良をおこすことがありますので、定期的に点検を行ってください。

保　守

- ケースはストッパを下に押しながら45°回すと外れます。ケースを外す場合は、ケース内圧力が0になっているのを確認してから行ってください。



- ケースの洗浄には、家庭用中性洗剤を使用してください。
- ケースを取付ける場合は、Oリングが正常に付いているのを確認し、取外しと逆の要領にて行ってください。Oリングが正常に付いていないとエア漏れの原因となります。
- フィルタエレメントは、使用中の一次側と二次側の差圧が0.07MPa以上になりましたら交換してください。



- マイクロフィルタ、ミストセパレータは推奨最大流量以下で使用してください。
  オイルミスト等の捕獲ができなくなります。

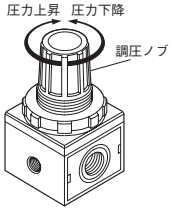
エアレギュレータ

⚠ 注 意

- 圧力を調整する場合は、必ず二次側の機器の仕様（最高使用圧力）や安全性（シリンダの動き等）の確認をしてから行ってください。二次側の機器が破損したり思わぬ動作をして事故を起こす危険性があります。
- 落下したり強い衝撃が加わった機器は使用しないでください。部品が損傷しているとエアが漏れたり誤動作する危険性があります。
- エアフィルタ（ろ過度40μm以下）を通した空気が流れるようにしてください。

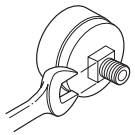
圧力調整の方法

○エアレギュレータの圧力は、調整ノブを引き上げ右方向（時計回り）に回すと上昇し、左方向（反時計回り）に回すと下降します。圧力の調整後に軽く押すとロックできます。

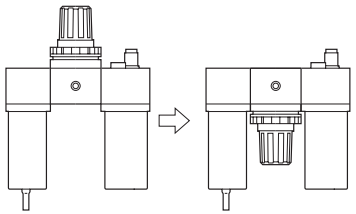


圧力計使用時の注意事項

○圧力計は、振動のある場所で使用しないでください。
○圧力計は、圧力の変動（脈動）の激しい場所（バルブの直前や直後、コンプレッサ付近等）で使用しないでください。使用する場合は、絞り等を取付け圧力の変動が直接伝わらないようにしてください。
○圧力計を取付ける場合は、必ず取付口の四角部にスパナを掛けて行ってください。四角部以外に力を掛けると破損の原因となります。



- エアレギュレータは、下図のように下向きに取付けることができます。圧力計は、前後付け換えてください。



保　守

- 定期的に設定圧力を確認してください。

エアルブリケータ

⚠ 注 意

- 有機溶剤（シンナー・トリクレン等）・アルカリ溶液・酸性の溶液が付着する危険性のあるところでは使用しないでください。ケース材質は、ポリカーボネートですので、有機溶剤・アルカリ溶液・酸性の溶液が付着するとケースが破裂することがあり大変危険です。
- 落下したり強い衝撃が加わった機器は使用しないでください。部品が損傷しているとエアが漏れたり、ケースが破裂することがあり大変危険です。
- ケースを取外す場合は、必ずケース内の圧力を0にしてから行ってください。残圧がある時ケースを取外すと、ケースが吹き飛び大変危険です。
- エアルブリケータには、マシン油・スピンドル油を給油しないでください。機器の作動不良や故障の原因となります。
- SAL・HALの滴下調整ニードルは、全閉状態から4回転以上回さないでください。回しすぎると滴下調整ニードルが抜け飛び大変危険です。
- エアフィルタ（ろ過度40μm以下）を通した空気が流れるようにしてください。

潤滑油の給油

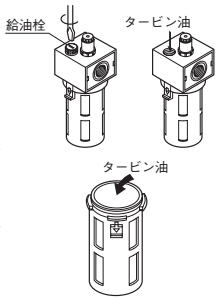
- エアルブリケータに使用する潤滑油は無添加のタービン油1種（ISO VG32）相当品を使用してください。

推奨タービン油

メーカー名	名　称
出　光　興　産	ダイアナフレシア S-32
キ グ ナ ス 石 油	タービンオイル32
コスモ石油ルブリカンツ	コスモタービン32
ジャパンエナジー(JOMO)	タービン32
昭和シェル石油	シェルビトリヤ32
新 日 本 石 油	タービンオイル32
三　井　石　油	三井タービンオイル32

- マシン油・スピンドル油は使用しないでください。
  機器の作動不良や故障の原因になります。

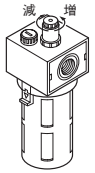
- エアルブリケータへの給油は、給油栓を取外すことによりメイン圧を止めずに行えます。給油栓を外すときに、急激にエアが吹き出ることがあるので注意してください。
- 給油栓から給油ができない場合は、ケースを取外してから行ってください。ケースを外す場合は、給油栓を外し、残圧が0になってから行ってください。ケースの脱着はエアフィルタを参照してください。



- 潤滑油は、上限位置以上にいれないでください。また、下限以下になる前に給油してください。

潤滑油滴下量の調整

- 潤滑油の滴下量の調整は、滴下調整ノブを右方向（時計回り）に回すと減り、左方向（反時計回り）に回すと増えます。



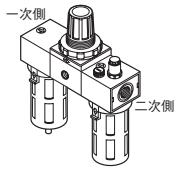
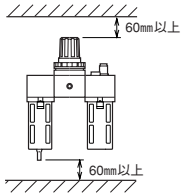
- 潤滑油の給油量は、空気流量1000ℓ/min(ANR)につき3～6滴を目安に行ってください。

エアルブリケータの取付

- エアルブリケータから潤滑対象物（シリンダ等）までの距離は5m以内としてください。潤滑対象物まで潤滑油が到達しない場合があります。
- エアルブリケータから潤滑対象物（シリンダ等）より高い所に取付けてください。潤滑対象物まで潤滑油が到達しない場合があります。立ち上がり配管をする場合は、0.5m以内としてください。
- エアルブリケータの空気流量は、油滴下最小流量以上にしてください。

一般的注意事項

- 直射日光は避けてください。
- 配管の際は、必ずフラッシングを行い異物（シールテープ・切屑・錆等）の混入を防いでください。
- 空気の流れる方向と矢印の方向を併せて取付けてください。



- 取付けはブラケットまたは鋼管配管にて支持して垂直に取付けてください。
- 仕様範囲以内で使用してください。
- 上下に60㎜以上の空間をあけて取付けてください。メンテナンスが容易になります。